

石神井川上流地下調節池事業における 連絡管トンネルに関する説明会(オープンハウス)〔議事要旨〕

1. 開催概要

日時： ①令和8年2月15日（日） 10:30～16:30
②令和8年2月18日（水） 16:00～19:30

場所： 西東京市立東伏見小学校 体育館（西東京市東伏見6-1-28）

2. 説明内容

- ①石神井川を取り巻く状況
- ②事業全体概要
- ③現在検討中の工事内容
- ④よくあるご質問

3. 主なご質問、ご意見と都の回答

別紙のとおり

カテゴリ	番号	ご質問・ご意見	回答
工事全般	1	地下調節池のうち連絡管トンネルの役割や目的を教えてください。	地下調節池は、大雨などにより石神井川の水位が一定以上上昇した際に、河川付近に設けた取水施設から洪水を取り込み、川の水位上昇や氾濫を抑制するための施設です。東伏見の取水施設から取り込まれた洪水は、連絡管トンネルを通じて本管トンネルへ流れ、地下に貯留されます。連絡管トンネルを整備することで、石神井川上流地下調節池では複数箇所（2箇所）からの取水が可能となり、より効果的な洪水調節を行うことができます。
	2	本管トンネルや連絡管トンネルが民有地の地下を通過する箇所はありますか？	本調節池では、河川や道路などの公共用地の下を中心に、地下約30メートルにトンネルを整備する計画としておりますが、本管トンネルについては、一部区間において民有地の地下を通過します。一方、連絡管トンネルについては、民有地の地下を通過しません。本管トンネルにおいて民有地の地下を通過する区間については、区分地上権を設定するなど、関係する権利者の方々と調整を行い、適切な手続きを進めております。
	3	令和17年度以降、調節池事業が完了した後、西東京市立東伏見公園および西東京市立東伏見緑道公園はどのようになるのでしょうか。また、立坑整備後の上部はどのように利用されるのでしょうか。	西東京市立東伏見公園および西東京市立東伏見緑道公園につきましては、調節池工事が完了する令和17年度末以降、都立公園の設計や整備に向けた準備が進められる予定となっております。具体的な整備時期や公園の開園時期などについては、現時点では未定となっております。なお、立坑整備後の上部には、地下調節池に洪水が流入した際の空気圧を抜くための排気塔が建設される予定です。排気塔以外の部分については、現在と同様に公園としてご利用いただける見込みです。具体的な復旧方法などについては、今後、関係する公園管理部署と協議を行いながら、方針を決定していく予定です。
トンネルの諸元	4	トンネルの深さが約30mとのことですが、そこまで深くする必要はあるのですか。	本管トンネルについては、青梅街道に敷設されている下水道幹線との必要な離隔を確保することを前提に、深さ約30mとしています。このため、本管トンネルと接続する連絡管トンネルの深さも同様に、約30mとなっております。
	5	地下調節池（トンネル）内に溜まった水は、どのように処理されるのでしょうか。また、トンネルの勾配はどれくらいですか。	地下調節池（トンネル）内に貯留された水は、トンネルに設けた勾配により、排水口が設けられている南町調節池側へ自然に流れる仕組みとなっております。雨が止み、時間の経過とともに石神井川の水位が下がった後、南町調節池側の立坑内に設置したポンプを使用し、排水口から石神井川へ排水します。なお、連絡管トンネルおよび本管トンネルには、下記のとおり勾配を設けています。 ■連絡管トンネル：市立東伏見公園側を高くし、本管トンネルに接続する側を低くする勾配としています。（勾配：1/500） ■本管トンネル：武蔵野中央公園側を高くし、南町調節池側（排水口）に向かって低くなる勾配としています。（勾配：1/1000 および 1/500）

カテゴリ	番号	ご質問・ご意見	回答
事業期間 スケジュール	6	調節池の完成予定はいつですか。	完成予定は令和 17 年度です。
	7	連絡管トンネルに関して、令和8年度には何を予定ですか。	令和8年度から電柱移設やガス管撤去などの関連工事が始まる予定です。また、樹木の移植工事に向けた根回し工事も実施する予定です。
	8	連絡管立坑、トンネル工事は本管トンネル工と同時に施工ができますか？また、連絡管トンネル工事は、本管トンネル工の進捗状況の影響を受けますか。	連絡管立坑工事など、一部については本管工事と同時に進めることが可能です。しかし、連絡管トンネルを本管トンネルに接続する工事については、本管トンネルの完成が前提となるため、本管工事の進捗状況によって影響を受ける場合があります。
事業費	9	本調節池の全体事業費はいくらですか。	約 1310 億円です。
	10	年超過確率1/20の規模の降雨への対策に、約1,310億円の費用を投入する必要が本当にあるのですか。費用対効果はどうなっているのですか。	石神井川上流部では、これまでも溢水による浸水被害が発生しており、さらに近年は気候変動の影響から、短時間に集中して降る雨が増加しています。このため、時間50mmを超えるような大雨にも対応できる施設整備は、住民の皆さまの命と財産を守るうえで早急に取り組むべき重要な対策であると考えております。 なお、費用対効果については、都の建設局河川部の計画部署において、適切に算出しておりますが、石神井川上流地下調節池事業全体でB/Cは1.11となっております。 (詳細については、R6.7に実施した都の河川整備計画策定専門家委員会で説明した資料が建設局ホームページに掲載されています)
交通 通学路	11	東伏見稲荷神社方面から伏見通りの交差点を横断して通学する東伏見小学校の児童が多いため、交差点部におけるダンプトラックの通行について、確実な安全対策を実施してほしい。 また、交通誘導員の配置計画や配置する時間帯について教えてほしい。	工事における具体的な安全対策の詳細については、別途開催予定の工事説明会にてご説明いたしますが、当該交差点においては、横断歩行者の通行を最優先とし、工事車両の出入り時には交通誘導員を配置するなど、児童をはじめとした歩行者の安全確保に努めてまいります。 交通誘導員の詳細な配置計画、時間帯につきましては、工事受注者が確定した後、具体的な内容をお示しします。
	12	スクールゾーンの解除については、近隣の小学校や市の教育委員会など、関係機関と調整しているのでしょうか。	スクールゾーンの解除については、関係機関と事前に調整を行っております。今後も引き続き関係機関と連携しながら、詳細について調整を進めてまいります。
	13	通学路の変更について、近隣の小学校や市の教育委員会と調整しているのでしょうか。	通学路の変更の必要性については、今後の工事内容や周辺の状況を踏まえ、必要に応じて近隣の小学校や市の教育委員会と調整してまいります。

カテゴリ	番号	ご質問・ご意見	回答
安全性 リスク	14	埼玉県で発生した下水道管に起因する道路陥没事故のような事象は、今回の事業でも起きるのでしょうか。	最近発生した下水道管に起因する道路陥没事故は、下水道管内で発生した硫化水素により下水道管が腐食したことが原因であると言われております。本事業の調節池が取り込む水は河川の水であり、汚水が常時流れる下水道とは構造や使用条件が異なるため、トンネルを腐食させる硫化水素が発生するおそれはほとんどありません。このことから、下水道管の腐食に起因したものと同様の道路陥没事故が発生する可能性は、極めて低いと考えています。
	15	最近、各地でトンネル工事に関する事故が相次いでいると報道されており、今回の事業においても地盤の陥没などが発生しないか不安に感じています。トンネル工事において、どのような安全対策を講じているのか教えてください。	地質調査の結果、トンネル通過箇所は、固い粘性土を含む、様々な地層が折り重なった状態であり、硬質で安定した地盤であることを確認しているため、トンネル地上部への影響は極めて少ないと考えています。また、シールド掘進時は、適切に施工管理を行い、「土の取り込みすぎ」による陥没を防ぎます。さらに、地表面の変動等を継続して調査いたします。本工事では、適切な安全管理および施工管理を徹底するとともに、必要な調査を継続的に実施し、事故が発生しないよう安全に工事を実施してまいります。
騒音 振動	16	騒音対策として防音壁を設置するとのことですが、高さが約4メートルでは低いのではないのでしょうか。音は防音壁の上から抜けてしまうと思いますが、大丈夫なのでしょうか。	防音壁の高さ約4メートルについては、現時点で進めている設計において、周辺環境や工事内容を踏まえ、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」で定められている騒音の規制基準値（80dB）を十分に満足する高さとして設定しております。 また、防音壁の上部を回り込む音については、低騒音型の建設機械の使用や消音装置の設置など、発生源対策を組み合わせることで低減を図る考えです。 なお、工事受注者が決定した際には、施工計画を踏まえ、あらかじめ周辺への影響も含めて検討したうえで、ご説明いたします。
	17	工事中の騒音や振動について、測定した数値は定期的に公表されるのでしょうか。また、インターネットからも確認できるようにしてほしいです。	工事中の騒音や振動については、工事の実施にあわせて、工事箇所周辺において定期的に測定を行う予定です。測定結果の公表方法については、現時点では確定していませんが、工事受注者が決定した後、施工計画を踏まえ、工事現場に設置するパネル等により、測定値を分かりやすくお知らせしていくことを検討しています。また、インターネット上での公表についても、ご意見を踏まえ、今後の検討事項とさせていただきます。
公園閉鎖	18	工事場所となる市の公園は、いつから閉鎖されるのでしょうか。	市立東伏見公園については、樹木の根回し作業時、樹木の移植作業時から取水施設工事まで閉鎖を予定しております。市立東伏見緑道公園は、樹木の移植作業時は閉鎖、立坑工事からトンネル工事までは一部閉鎖を予定しております。なお、公園の具体的な閉鎖時期や範囲については、工事着手前にあらためてお知らせします。
	19	市立東伏見公園の閉鎖期間について、より具体的に教えてください。特に、樹木の根回し作業の際に、どの程度の期間、全面閉鎖となるのでしょうか。	樹木の根回し作業に伴う市立東伏見公園の全面閉鎖期間については、現在、公園管理者等の関係機関と協議を行っている段階であり、現時点では、具体的な期間をお示しすることはできません。今後、準備工事の着手前に実施予定の工事説明会において、詳細なスケジュールや閉鎖範囲等についてご説明する予定です。

カテゴリ	番号	ご質問・ご意見	回答
樹木	20	シンボルツリーとして、西東京市50選に選定されているケヤキを残してもらえると聞き、安心しました。	西東京市50選に選定されているケヤキは、地域の象徴的な存在であることから、樹形を可能な限り保持した状態で、大型クレーンを用いて移植する計画としています。
	21	市立東伏見公園内の「西東京市の木50選」に選ばれているケヤキは移植すると聞いていますが、それ以外にも多くの樹木があります。それらの樹木は、すべて撤去してしまうのでしょうか。	本調節池事業において、市立東伏見公園内の「西東京市の木50選」であるケヤキ及び市立東伏見緑道公園内のサクラ以外については、樹木診断の結果、倒木のおそれがあることや、工事を行ううえで支障となることから、やむを得ず撤去します。
石神井川の水位	22	石神井川は、平常時や渇水期には水が流れていないことが多く、この小学校より西側では川が干上がっているように見えることがあります。本事業は、他の河川から水を引いて石神井川に流す工事なのでしょうか。また、調節池に貯留した水を少しずつ排水することで、川に常に水が流れるようにすることはできないのでしょうか。現在このような状況であっても、調節池は本当に必要なのでしょうか。	本事業は、他の河川から水を引いて石神井川に流す工事ではありません。また、調節池に貯留した水を平常時に少しずつ排水し、常時川に水を流すことを目的とした事業でもありません。本調節池は、大雨などにより石神井川の水位が急激に上昇した際に、洪水の一部を一時的に貯留することで、川の水位上昇や氾濫を抑え、浸水被害を軽減するための治水施設です。洪水がおさまった後には、河川の水位が低下したことを確認した上で、次の出水や水位上昇に備え、速やかに貯留した水を河川に排水します。石神井川では、平常時や渇水期には水量が少ないことがありますが、一方で、近年は集中豪雨などにより短時間で水位が上昇し、浸水被害が発生するおそれがあります。このため、平常時の川の状況にかかわらず、大雨時の安全性を確保する観点から、調節池の整備が必要であると考えています。
内水氾濫 外水氾濫	23	大雨が降ると、青梅街道と伏見通りの交差点で道路冠水が発生しますが、本施設が整備されることで道路冠水は解消されるのでしょうか。	水害には、内水氾濫と外水氾濫の2種類があります。内水氾濫は、市街地に降った雨が下水道や側溝などの排水能力を超え、道路などにあふれる現象で、主に都市部で発生します。一方、外水氾濫は、河川の増水や堤防からの越水・決壊により、河川の水があふれる現象です。本事業で整備する地下調節池は、石神井川からあふれる洪水を貯留する施設であり、外水氾濫の防止を目的としています。このため、ゲリラ豪雨などにより発生する都道の道路冠水は、主に内水氾濫によるものであり、下水道や側溝などの排水施設によって対応することになります。今後、石神井川本川の河道整備（時間雨量50mm対応）や調節池の整備が進み、あわせて西東京市の下水道整備が進展することで、内水氾濫の発生低減が期待されます。
維持管理	24	地下調節池（トンネル）内に洪水が流入した後、管内の清掃は行われるのでしょうか。また、清掃方法について教えてください。	洪水の流入後には、まず排水作業を行い、その後、雨の少ない時期に清掃作業を実施します。清掃作業は、南町調節池の立坑上に建築する管理棟から作業車等を搬入し、管内に堆積した土砂等を吸引・除去します。

カテゴリ	番号	ご質問・ご意見	回答
耐震性	25	地下調節池（トンネル）は地震にどの程度強いのか。	地下構造物は周囲の地盤と一体となって揺れるため、地震の影響を受けにくい構造です。また、本施設については、大規模な地震に対して十分な安全性を確保できるよう、必要な強度を考慮した耐震設計を行っています。
井戸・地下水	26	自宅敷地内に井戸があるため、今後、工事の影響により井戸水が出なくなるのではないかと心配しています。	立坑工事では、地下水をくみ上げることは無いため、地下水への影響は生じにくいと考えています。なお、地下水への影響がないことを確認するため、事前に連絡管の工事エリア近傍の井戸を調査し、工事期間前・中・後の地下水の観測や水質について長期間の調査を行います。
文化財・遺跡	27	近傍に下野谷遺跡があるが、地下に遺跡はないのですか。	埋蔵文化財調査を実施した結果、工事予定箇所に遺跡（埋蔵文化財）は確認されませんでした。